

「東アジアジュニアワークショップ参加報告書」

京都大学文学研究科1年 鈴木起生

○プログラム内容

今回のプログラムは、国立台湾大学（NTU）とソウル大学との合同で行うプログラムが5日間あり、それに加えてわたしたち京都大学のチームは前1日後2日の研修を行った。合同プログラムは前半の3日間がフィールドトリップ、後半の2日間がワークショップである。フィールドトリップはNTUの学生たちが入念に準備してくれていたおかげで、とても充実したものになった。訪問先としては新しい競技場の建設現場、福祉コミュニティ、ホームレスの集まる寺院、台北駅などであり、いずれも社会的に興味深い場所が選ばれていた。ワークショップは15分の発表+15分の質疑応答というセットの繰り返しで、2日間かけて計16名の発表が行われた。始まる前は長過ぎるのではないかと思われた質疑応答の時間も、教授・学生双方からの積極的な質問・コメントがあったために、全く長く感じなかった。京都大学のみで行った追加の研修では、フィールドトリップでは見られなかった様々な場所に赴き、合同プログラムを補完する意味で効果的であった。

○学習効果

今回のプログラムでは、英語での発表だけでなく、絶えず他校の教授・学生と英語でコミュニケーションを図る機会があった。そこでは自他の紹介から研究の話、政治的な話題、各国の事情についてなど、多種多様な会話が求められた。こうした雑談というのはどのような話題が飛び出すか予測不可能な部分が多く、その意味で、ある程度内容が限定される発表時の質疑応答よりも難しいものである。そうした経験により、様々な話題に素早く英語で対応する反射神経が鍛えられた。発表においては英語力というより、各自が自分の発表テーマについていかに深く考えているかが問われたように思う。質疑応答で特徴的だったのは、各自の発表内容自体だけでなく、それがより広い社会的文脈のなかにいかに位置づけられるのかが鋭く問われた点である。そこでの議論により、自分の研究テーマを常に広い文脈のなかで考えることの重要性を学んだ。

○海外での経験

東アジアの3カ国が合同でワークショップを行い、その中で互いに交流し合うという経験は、わたしに様々なことを考えさせる機会となった。

まず1つは国民国家という枠組みについてである。本プログラムの大きな目的の1つは、従来の国家を単位とした思考の枠組みを改め、各々の国を超えたより広い視野を獲得するということである。この点にこそ、複数の国の人間が共同でプログラムを行うことの意義がある。しかし国家という枠組みを超えるということの意味は、必ずしも明確ではない。今回のワークショップでは国際比較を試みた発表が多くなされたが、国際比較とは国と国の間で比較を行うということであり、分析の単位が国であることに変わりはない。単に国同士を比較するのみでは、国家の枠を超えたということにはならないのである。しかし他方で、国家が未だ人間を規定する大きな枠組みであることは疑いようがない。わたしたちはプログラムを通して様々な会話を交わしたが、その中では韓国の学生は韓国の事情について説明することを、日本の学生は日本のそれを、台湾の学生は台湾のことを説明するよう絶えず求められた。わたしたちは無意識のうちに、各国の「代表」として相手を見つめ、同様のまなざしで見つめ返されていた。これほどに国家という枠が人間を規定する中で、それを超えるということは何を意味するのだろうか？

もう1つ考えさせられたのは、台湾と韓国に残る日本植民地主義の痕跡と、両国でのその受け止め方の相違である。それは言語や文化といった側面に現れ出ていた。韓国の学生は日本語が全く分からない人がほとんどであったが、台湾の学生は日本語のわかる人が多く、日本のポップカルチャーにも興味を示す学生が多かった。台湾の高齢世代に日本語の話せる人が多いということは知っていたが、若年層にも未だこうした傾向が見られることには、植民地時代の名残を感じざるを得ない。両国の相違は、都市の景観にも現れていた。フィールドトリップで訪れた台北駅付近の地下道は、さながら秋葉原のミニチュア版であり、「日本よりも日本らしい」といった様相であった。韓国ではこのような場所は無いという。台湾では今も掲げる国旗を替えながら使われている総統府だが、韓国では打ち壊され全く残っていないと聞く。こうした相違は、台湾が韓国よりも日本に好意的だったように単純に片付けられるべきではなく、その違いを生んだ背景を歴史的に考える必要があると感じた。

○進路への影響

わたしは、博士課程に進学し研究者を目指すか進学せずに就職するかで常に悩んでいる。本プログラムへの参加がその選択に及ぼす影響は定かではないが、そこでの様々な経験を通して研究に対する理解を深めることができた。今後の進路について考える素材として活用したい。